

北海道社会学会ニュース

H. S. A. NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局
〒060-0906 北海道札幌市東区北6条東3丁目3-1 LC北6条館6階
北海道NPOサポートセンター気付
FAX: 011-299-6941 E-mail: socio@npo-hokkaido.org 担当 畑
郵便振替口座 02760-3-3085 URL <http://www.hsa-sociology.org>

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION

c/o Hokkaido NPO Support Center,
LC Kita Rokujokan., Kita 6 Higashi 3 3-1, Higashi-ku,
Sapporo, 060-0906 JAPAN

編集責任者：今井順（庶務理事） 北海道大学大学院文学研究科 jimai@let.hokudai.ac.jp
〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目 TEL 011-706-4089

北海道社会学会会長就任にあたって

原 俊彦

このたび会長の任を賜りました札幌市立大学の原です。大会でもお話しましたが、「ついに回って来たか。何とか2年間、頑張って、無事に次の人にバトンタッチしたい」というのが素直な感想です。何代目の会長かはともかく、すでに50周年記念のCDを出し、今回の第61回大会を迎えたことからわかるように、ささやかな地方学会ではありますが、この学会は長い伝統と多くの先輩により支えられてきました。この学会を何とか、次の人たちにも引き継いで頂きたいと願っております。

私自身は1988年（25年前！）に札幌に来たのですが、設立当初の、北海道東海大学（現在の東海大学札幌キャンパス）国際文化学部には5、6名の社会学関係者がおり、先輩の先生から勧められ、この学会に加入しました。ビジネスの世界から転身してきたばかりで、当時は学会というものの自体の機能が理解できず、全国学会でさえ参加する意味が見出せずにおりました。しかし、この学会は、会員同士が、皆、知り合いであり、同じ社会学（あるいは隣接、関連諸学）といっても多様な分野の人たちが、多様な関心と方法に基づき研究報告しており、一度、参加すると「癖になる」ような不思議な魅力を持っています（会費が安い、地元なので大会参加が容易、投稿論文が掲載される確率が高い、誰でも委員や理事などの役職に付く可能性がある。非常勤や共同研究の誘いがあるなど沢山のメリットがあります）。実際、この学会のネットワークは非常に広く、私自身も、この学会を通じ、日本社会学会、日本家族社会学会、日本人口学会などの、多くの優れた研究者と繋がることができました。今では、学会というものは、同業者組合、あるいは同好の士の親睦互助組織であり、その基本は、人と人とのつながりを通じ、お互いを刺激し、学び合い、助け合うことにある、

そして、この学会は、さらにそれが、社会学というよりは、北海道という地に根差したもののなのだと思います。

第61回大会ということは、人間でいえば還暦（奇しくも私自身、今年、その歳を迎えました）を過ぎ、この学会もまさに次世代に引き継がれるべき時期に来ているといえます。そして、そのためには、何よりも、より多くの方たちにこの学会に参加していただき、この組織が再生産されるようにしなければと考えております。日本の人口問題と同じですが、持続可能な社会システムの必要条件は（大きくなる必要はありませんが）再生産水準の回復にあります。2年間という短い期間ですが、会員の皆様にも、よろしくご協力くださいますようお願い致します。頑張っ、仲間を増やしましょう！

（2013年6月30日記）

第61回北海道社会学会大会について

平沢和司（研究活動委員長）

第61回北海道社会学会大会は2013年6月8日（土）に、北海道大学（札幌市北区）で開催されました。札幌近郊在住の会員が多いことを考慮し、今大会も1日開催としました。

一般報告は10本で、午前は2部会、午後は1部会の合計3つの部会が開催されました。

例年開催されているシンポジウムは、今回も1日開催による時間的な制約などの理由から実施しないこととしました。代わりに特別セッション・ワークショップを会員から募集しましたが、応募がありませんでした。そこで「近年の大規模社会調査の現況と課題—SSM調査を中心に—」が研究活動委員会によって企画され、同委員の高田洋会員と私が報告をいたしました。セッション全体で1時間30分と比較的短時間でしたが、最後の30分間は報告者がフロア一からの質問や意見に答えるかたちで議論が交わさ

れました。

大会参加者数は、一般会員 43 名、院生会員 8 名、非会員 9 名の計 60 名でした。

総会終了後には、会場内の教室で懇親会が開かれました。参加者数は 32 名でした。今回は初めての試みとして、飲料とオードブルを取り寄せ、立食形式で開催されました。また報告要旨集も外部業者へ印刷を依頼せずコピーで済ませたため、懇親会費をふくめて大会参加費 3,000 円のみで、すべてを運営することができました。

大会運営にあたってくれた同大の関係者、および学生のみなさんに御礼申し上げます。なお、こうした簡素化した大会運営については理事会での議論を踏まえて行っていますが、いろいろなお意見があるかと思えます。1 日開催の是非を含めて、会員各位のお考えをお近くの理事あるいは研究活動委員にお伝えいただければと思います。

最後になりますが、この大会をもって研究活動委員の任期が終了します。あらためてみなさまのこれまでのご理解とご協力に感謝申し上げます。

第 61 回大会特別セッション「近年の大規模社会調査の現況と課題—SSM 調査を中心に」について

平和和司・高田洋（研究活動委員）・原俊彦（札幌市立大学）

第 61 回大会ではシンポジウムの代わりに特別セッションが行なわれました。近年の大規模な量的調査を取り上げ、その方法と内容についての総括的な現況が報告されました。分析方法を含めた社会調査の方法論的な流れについて平沢が、2005 年 SSM 調査を中心とした内容の概観について高田が分担し、報告しました。

平沢報告では、近年の大規模社会調査をめぐる変化として、データアーカイブの登場と二次分析の隆盛、および大規模なパネル調査の開始をまず確認しました。そのうえでパネル調査が始まった理由として、より正確な変数の測定、因果関係の方向の特定、そして因果効果の大きさの正確な推計をあげました。同時に、パネル調査はかならずしも万能ではなく、選択バイアスを完全には除去できないこともあわせて指摘しました。選択バイアスとは、本来であれば調査の対象となるべき集団から一部の個人が選択されていることから生じる因果効果の歪みを指します。そしてこの問題は、誰を調査や分析の対象に含めるべきかという「ケース選択」の問題と関連していますが、これこそはいわゆる質的調査が長年とり組んできた課題でもあります。そうした質的研究における知見を、量的調査もうまく取り込む必要があることを強調して報告を終えました。

高田報告では、『現代の階層社会』1～3 巻（2011 年 9 月刊行）を底本とした 2005 年 SSM（社会階層と社会移動）調査の主要な知見を示しました。それぞれの研究内容の共通した視点として若年層への過酷なインパクトがあり、次のようにまとめられます。

(1) 「流動化」の影響は若者に強く、かつ階層性がある。(2) 社会移動の相対移動は一貫しているが、絶対移動の重要性が増加し、産業構造の変化の分析の重要度が増している。その構造変化は若年層の就業により強い影響を持っている。(3) 雇用形態の流動化と共に社会的な非連帯が特に若い世代で進んでいる。まとめとして、産業構造や就業構造の変化の中で、いわゆる「失われた世代」の社会参加や連帯のあり方が今後課題となることを報告しました。

報告の後には活発な議論が行なわれました。盛んになってきた大規模調査のあり方や、日本社会の現状についての質疑応答がなされました。

第 61 回北海道社会学会総会について（第 61 回北海道社会学会総会議事抄録）

日時：2013 年 6 月 8 日（土）16:30～17:00

会場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 W202 教室

議長：今井順会員

報告

1. 庶務報告（西浦庶務理事）

1-1. 会員異動（2012 年 7 月～2013 年 6 月）

新入会員 4 名・退会会員 10 名（うち自然退会 8 名）の計 6 名減で、6 月 8 日現在の会員数は一般会員 118 名・学生会員 21 名の計 139 名。

1-2. 理事会開催

2012 年 11 月、2013 年 2 月、6 月の 3 回およびメールによる持ち回りで随時開催した。

1-3. 会報の発行

4 号発行した（No. 92～95）。

1-4. 学会研究奨励賞の交付

応募がなかったため、今年度は該当者なし。

1-5. その他

『現代社会学研究』25 号までアーカイブ化済（J-STAGE：科学技術情報発信・流通総合システム）。

2. 選挙管理委員会報告（田島選挙管理委員長）

2013 年 5 月 16 日に役員選挙の開票作業を行い、5 月 22 日に新役員が決定した。

新役員の役割分担（西浦庶務理事）

会長：原俊彦

副会長：小内透

研究活動委員会：梶井祥子（委員長）・今井順・

品川ひろみ・川畑智子*
 編集委員会：内田司（委員長）・笹谷春美・
 木戸功*・猪瀬優理*
 会計担当理事：加藤喜久子
 庶務担当理事：高田洋（今井順**）
 監事：西浦功*・酒井恵真*
 （敬称略、*は理事外、**は諸事情により 2013
 年 9 月 5 日付けで交代、新役員・委員の任期は
 大会終了の翌日より 2 年後の大会終了日まで）

3. 次回第 62 回大会開催校について（櫻井会長）
 札幌大谷大学（札幌市）に決まり、櫻井会長より
 紹介、開催責任者となる梶井会員より挨拶があっ
 た。

議題

1. 2012 年度決算（小内会計理事）
 提案（別紙）のとおり承認された。
2. 2013 年度予算案（小内会計理事）
 提案（別紙）のとおり承認された。

第 3 回理事会（新旧合同理事会）報告

日時：2013 年 6 月 8 日（土）12:00～12:45
 会場：北海道大学人文・社会科学総合研究教育棟
 W303 教室
 出席者：櫻井会長、原副会長、平沢・小内（透）・
 飯田・木戸・高橋・小内（純）・西浦の各理
 事に加え、今井・内田・梶井・加藤・笹谷・
 品川・高田の新選出理事

報告

上記の総会における議題と同じ。

議題

- 上記の総会における議題のほかは以下の通り。
1. 引き継ぎ事項の確認について（西浦庶務理事）
 学会大会の運営や学会の組織運営に関する課題
 点について、新旧理事で引き継ぎが行われた。

委員会報告

編集委員会（内田編集委員長）

『現代社会学研究』第 27 巻（2014 年 6 月発行予 定）の原稿募集について

① 投稿原稿の募集

『現代社会学研究』第 27 巻の投稿原稿を募集に関
 し、もろもろの事情によりニューズレター発行が遅
 れているため、すでに「編集・投稿規程」に定めら
 れている締切日を過ぎてしまいました。そのため、

編集委員会としては、会員の皆様に投稿応募を呼び
 かけ、促すことが出来なかったことを残念に思っ
 ております。しかし、応募締切日は「編集・投稿規程」
 で定められていること、また学会のホームページに
 も表示されていることから、締切日を延期するなど
 の特別の措置はとらないことにしました。会員の皆
 様にはこの編集委員会の決定をご了解いただけま
 すよう心からお願い申し上げる次第です。なお、現在
 7 本の投稿応募が寄せられています。なお、もしニ
 ューズレターの発行まで応募を控えていたなどの事
 情で、第 27 巻の投稿応募に関して何らかのご要望や
 ご質問がある場合は、編集委員長の内田
 (tsukasa@sgu.ac.jp) まで問い合わせしていただ
 ければと思います。必要があれば編集委員会で議論し
 たいと思います。

投稿の応募をされた会員の方は、審査用原稿を「執
 筆要項」の指定に基づく A4 サイズ 16 枚以内の PDF
 ファイルとして作成し、10 月 31 日（木）必着で学
 会事務局宛てメールに添付してお送りください（従
 来、投稿原稿 3 部を郵送していただいていたこと
 もありましたが、これは不要です）。その他の詳細に
 ついては、学会ホームページに掲載されている最新
 の「編集・投稿規程」および「執筆要項」を熟読し
 てください。

② 書評対象書の募集

『現代社会学研究』第 27 巻に書評を掲載する対象
 書を会員の皆様から広く募集します。自薦他薦を問
 いません。会員の著作（会員の単著、または会員が
 編著者になっているものが原則）で書評として是非
 取り上げて欲しいものがありましたら、その書誌情
 報（著者名、書名、発行年、版元名）を学会事務局
 (socio@npo-hokkaido.org) までお寄せください。自
 薦の場合は、書評を書いて欲しい会員名、リプライ
 付を希望するか否かについてお伝えください。また
 できれば書籍現物もお寄せください。特に指名がな
 い場合は執筆者を編集委員会で決定いたします。当
 該書の発行時期は必ずしもこの一年間でなくても構
 いません。過去数年に刊行されたもので、書評対象
 とするにふさわしいと思われるものについても可
 とします。締切は、10 月 31 日（木）必着です。情報
 を集約の上、編集委員会で検討して掲載の是非を決
 め、結果をご連絡いたします。

③ 書評原稿および「往来」原稿の募集

第 26 巻に引き続き書評原稿を募集します。必ず
 しも書評という形式ではなく、その書籍の内容に何
 らかの形で言及しながら、ある研究テーマについて
 展開する内容となっても構いません。また海外事情
 の紹介やある分野についての最新の研究動向などに

触れた「往来」の原稿も募集します。いずれも学術的な内容であることを条件とし、分量はリプライがつく場合は6,000字程度、つかない場合は3,000字程度とします。締切は10月31日(木)必着で、学会事務局 (socio@np-hokkaido.org) までメール添付でお送りください。その際の添付ファイル名は「書評投稿申込〇〇.doc」ないし「往来投稿申込〇〇.doc」(〇〇には申込者の氏名を入れる)としてください。但し投稿された原稿の取り扱いについては編集委員会にご一任ください。「往来」の投稿が少ない場合などには、編集委員会から個別にご執筆をお願いすることもあります。その折りにはどうかよろしくごお願い申し上げます。

北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、2006年より研究奨励金を交付しています。ついては下記により奨励研究を募集いたします。ぜひご応募ください。

1. 募集件数：2件(1件5万円)
2. 応募資格：本会会員(若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す)
3. 条件：奨励金交付後2年以内の本学会大会での研究発表、および2年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
4. 応募方法：まず応募用紙を庶務理事あてe-mailでご請求ください。ついで応募用紙に下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出してください。
①研究テーマ、②応募者(氏名・所属)・郵便番号・住所・TEL・FAX・e-mailアドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等(具体的に)、④研究の方法と予想される成果(具体的に)、⑤指導教員のサインと印
5. 提出期限：2013年10月31日(木)必着
6. 提出先・問い合わせ先：今井順(庶務理事、あて先は1ページ参照)

会員情報の更新について

住所や所属が変更になったときは、遅滞なく郵便かメールで事務局(担当:畑 socio@np-hokkaido.org)までお知らせください。その際、e-mailアドレスもお忘れなくご登録ください。

会費の納入について

2013年度会費または未納分会費について、同封の郵便振替用紙[郵便振替口座 02760-3-3085]にてすみやかに振り込み手続きをお願いします。年会費は

一般会員6,000円、学生・院生会員4,000円です。2013年度会費を納入されていない方には、機関誌第26巻(本年6月発行)をお渡しできません。5年間滞納されると、自然退会の扱いとさせていただきます。

学会ホームページの移転について

2012年度よりHPアドレスが新しくなっております。新しいURLは<http://www.hsa-sociology.org/>です。リンクやブックマークの変更は、早めにごお願いいたします。

また現在、学会HPでは日本社会学会と西日本社会学会へのリンクを設けておりますが、今後もリンク先を増やす方針で準備を進めております。(a)個人HPをお持ちの方で学会HPへのリンク登録を希望される場合や、(b)北海道社会学会がリンクを張るべきと思われる有用なサイトがある場合は、①URL、②メールアドレス、③所属機関等、④氏名の4点を学会事務局宛メールにてお知らせください。

『現代社会学研究』発送についてのお詫びとお願い

このたび、諸事情により機関紙の発送が例年より大幅に遅延しておりますことを深くお詫び申し上げます。去る6月の学会大会時に機関紙を受け取れなかった会員の方には、8月9日(金)に学会事務局より一斉配送いたしました。到着をご確認ください。また現在、機関紙配布者リストに若干の不一致が発生しております。もしも、今年度会費をすでに納入済にもかかわらず機関紙が未着の際は、お手数にて誠に恐縮ですが、その旨学会事務局(socio@np-hokkaido.org)までご一報ください。連絡いただき次第すみやかに配送させていただきます。

日本社会学会理事からのお知らせ。

昨年10月より、小内(透)および笹谷は日本社会学会の理事として、それぞれ「倫理委員会」および「社会学教育委員会」を担当しております。特に「社会学教育委員会」は学術会議の「社会学分野の参照基準検討分科会」と連携し、参照基準の策定に関わることになりました。なるべく多数の社会学担当教員の経験を踏まえることが必要と考えています。詳しくは日本社会学会ニュースレターNo. 209(2013. 9. 10)の各種委員会報告をご覧ください(文責笹谷)